

「今年もよろしくお願いします」



菅生の森づくり協議会の木こり講座では、今年も老齢コナラ林の再生を目的にしたコナラの間伐を始めました。

メンバーは、協議会に参加している西多摩マウンテンバイク友の会やNECフィールディングのOBを中心としたボランティアで進めています。古いメンバーは、5、6年の経験を有しているため、安心して見ていただける技術を身に付けています。

伐採したコナラは、そのまま放置するのではなく、2月に行われるシイタケの駒打ち体験のホダ木として無駄なく利用します。伐採

したコナラを山から降ろすためには、利用する大きさに玉切りする必要があります。さらに、伐採時のコナラは、水分を多く含んでいるためとても重い状態です。そのため、伐採時は玉切りせずしばらく放置し、葉干し(枝葉から木の水分を蒸発させ、木を軽くする)をしてから玉切りします。山から材を運び出すことも、木こりの作業の一つで、搬出経路を考え、運搬車が通れる道を作る必要もあります。メンバーは、この道づくりも手慣れたもので、重いコナラを満載した運搬車が安全に通れる道を作り上げます。



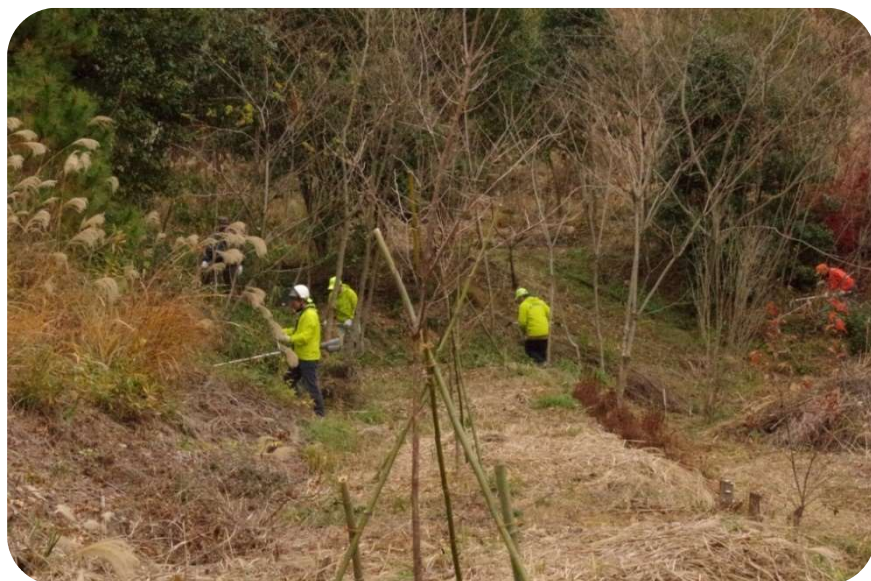
間伐されたコナラ林は、林床に光が射し、落ちたドングリから次の世代の若木が実生で生えます。森を若返らせることで、台風時の風倒木などを減らし、減災機能を持った森になるように考えています。この森を里山として次世代に残す取組を進めています。



運搬車の道づくり

西ヶ谷戸町内会(草花)との協働の取組

藪と戦う緑地造成



この場所は、開発のために皆伐された跡地で、現在は良好な自然環境の確保を目的とした市の緑地となっています。隣接する西ヶ谷戸町内会の組と維持管理についての協定を結び、協働で保全に取り組んでいます。

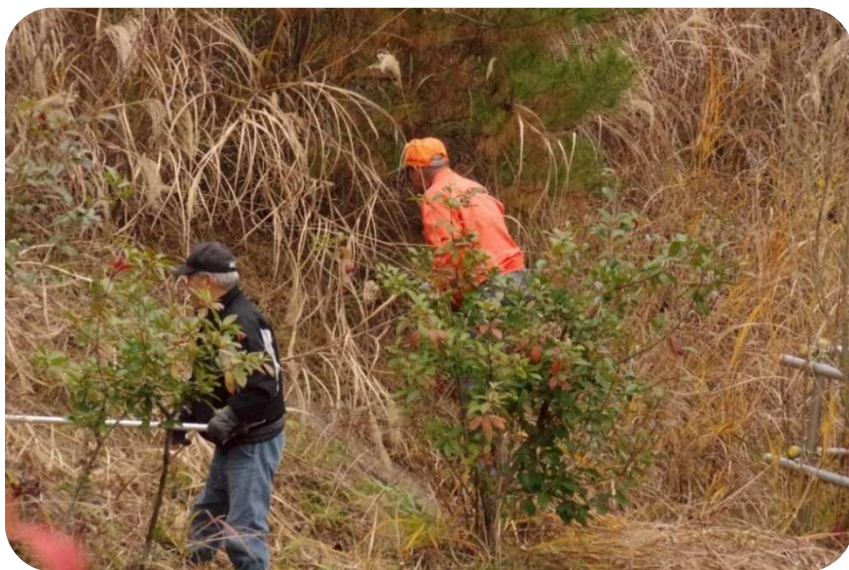
開発当時、重機で山の斜面をひな段状に掘削したため、木を育てる表土がなく、関東ロームがむき出しになっています。

掘削直後の裸地の時は、雨水が集まり、周辺の宅地に流れ込むこともあったと聞いています。今では、乾燥や痩せ地に強い

ススキとアカマツが繁茂して雨水の流れを押さえるようになったため、宅地への雨水の流入はなくなったと聞きました。植物の防災・減災能力の高さを痛感しました。

しかし、植物の生長は早く、すぐに藪化してしまいます。いずれ荒廃していくことも考えられるため、この場所で草刈りや植栽などの景観整備を行い美林を作っていく必要があります。

昨年11月には、ツツジとヤマザクラを植栽しました。いきなり大面積で造林すると、雨水の問題が再発するため、少しずつ、安定させて長い目で植栽を続けて、景観を変えていくことになります。



5年後、10年後に
期待してください！

